

【3歳児 11月の事例】

〇〇のつもりになって、大好きな保育者と遊ぼうとする

「おれは悟空だ。わになんかやっつけてやる」

① つるつる山からA児とB児が「先生こっちこっち」と声を掛けた。保育者が近づくとA児は「捕まらないよ」と言うので、保育者は「パクパクわにだよ。食べちゃうよ」と保育者もわになりきって捕まえようとした。すると、A児は「こっちだよ。食べてみろ」B児は「食べちゃいやだ」と言った。

砂場にいたC児は、保育者を見て「これは、わにさんの御飯だよ。食べてね」と、どんぐりをつるつる山の周りにまいた。保育者が「わあ、おいしそう。もりもり食べて力を出しちゃうよ」と言ってどんぐりを食べるまねをすると、A児も山から降りてきて「僕だってご飯食べて力つけるもん」とどんぐりを食べるまねをした。

② D児が近づいてきてしばらく様子を見ていた。すると、「おれは悟空だ。わになんかやっつけてやる」と、わにと戦うつもりで、保育者の背中をたたいた。保育者は「わには強いから悟空も食べちゃうよ。がおお」とD児を捕まえるまねをした。D児は「悟空は強いんだ」と保育者と戦うつもりで、保育者に向かって行った。

③ 保育者は、「う、やられた。Dちゃん、Aちゃんたちを助けに来てくれたんだね」と言うと、D児は少しうれしそうな表情になった。保育者が「DちゃんもAちゃんたちと一緒に遊ぶ？」と声を掛けた。D児は「うん」と言い、つるつる山に登り始めた。保育者は「みんなを、食べちゃうよ」と言って遊びを続けた。



幼児の姿から『学びに向かう力』を読み取ると…

【親しみ】

①大好きな保育者を遊びに誘って、イメージをもってやりとりを楽しんだ。

【親しみ・思いやり】

①保育者にご飯を渡して、大好きな気持ちを表した。

【好奇心、信頼感】

②自分なりの方法で保育者のいる遊びに参加しようとした。

【安心感、満足感】

③悟空になったつもり言葉を保育者に受け入れてもらって、友達と一緒に楽しんだ。

学びに向かう力

自分の気持ちを調整する力

粘り強く
取り組んだり
挑戦したりする力

仲間と協調する力

学びに向かう力を育むための手立て

環境の構成のポイント

「保育者が〇〇のつもりになりきって遊んだり、楽しくなる遊具を用意したりしましょう」

- 3歳のこの時期、保育者がいれば友達と一緒に遊ぼうとする幼児も増えてきます。〇〇のつもりになって楽しそうに遊ぶ保育者の姿が大切です。
- 幼児の「〇〇のつもり」を楽しくする素材や遊具、遊びの場などを用意することも大切です。



保育者の関わりのポイント

「『先生、〇〇して遊ぼう』という言葉を受け止め、一人一人の“〇〇のつもり”に応じましょう」



- 幼児は保育者が大好きになり、一緒にいると楽しい、してほしいことをかなえてくれるという思いで保育者を求めています。幼児の「〇〇のつもり」を分かって動いたり言葉にしたりして幼児が「〇〇のつもり」で楽しく遊ぶことができるようにします。
- 幼児は、行動で自分の思いを表現することがあります。保育者は、その思いをくみ取って言葉にして周りの友達にも伝わるようにしていきます。

家庭での関わりのポイント

「〇〇のつもりの世界に、付き合いましょう」

- 家庭でも、ヒーローやお姫様になって遊ぶ姿が見られると思います。なりきっている気持ちに応答して「お姫様、そろそろお風呂に入りましょう」など、一緒に楽しんでください。
- 時には、戦いのつもりでパンチやキックをすることもあります。まだ加減をすることが分からないので「今は痛かったよ。もう少し優しくしてね」と伝えるようにしてください。